

山中だより

山中 してもらおう
キャッチ させられる人から
フレーズ する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第16号

発行 令和元年10月17日 校長 交久瀬 善浩

◆◆2学期中間テストが終了しました◆◆

昨日までにほぼ中間テストの結果が返ってきたと思います。テスト前に立てた目標と比べてどうでしたか？

自分の目標としていた結果に達することができた人はよく頑張ったと思います。でも、目標に達することができなかった人は、何故到達できなかったのかの原因を突き止め、期末テストでも同じことにならないようにしましょう。また、目標に到達できた人もできなかった人も、間違えた問題は必ずその範囲を学習し直して、わかるようにしておきましょう。決してそのまま放っておくことが無いように！！

わからないことは次のわからないことにつながり、わからないことが連鎖して、取り返しのつかないことになります。そうなるからでは遅いです。そのことを絶対に忘れないように！！



◆◆次期生徒会役員選挙が始まりました◆◆

現生徒会役員の任期がまもなく終わります。それに伴って、次期生徒会役員選挙が23日（水）に行われます。その選挙運動が昨日16日から始まりました。朝、校門や下足場付近でそれぞれの候補者が大きな声で呼びかけを行っています。今回の選挙は、10つの席（本部役員6名と専門委員長4名）に20名が立候補するという結構厳しい選挙となっています。それぞれみんな頑張ってもらいましょう。



今まで私が赴任してきた学校では、生徒会の本部に立候補する人が少なく、信任不信任の投票になったりすることが多かったのですが、山田中学校は多くの方が立候補して頼もしい限りです。この前の全国学力学習状況調査において、山田中学校の生徒は、主体性に係る状況調査の項目がすべて全国の平均値を大きく上回っていたのですが、その結果を証明するものがこのようなところにも表れていて、あの数値は本物だと誇れる気持ちでいっぱいです。

「自ら考えて動く！」。現生徒会本部の活動の中でもいろんなところで発揮されていましたが、次期生徒会本部もしっかりと引き継いで頑張ってもらいたいと思います。大いに期待しています！！

◆◆「感謝される行為と非難される行為」◆◆

昨日の生徒朝礼は教頭先生からの話になりましたが、その中の話に関係して感謝される行為と非難される行為について、みなさんに考えてほしいと思います。まずは昨日の朝礼で教頭先生と生徒指導の先生の話しにあった最近学校に連絡のあった感謝された行為と非難された行為を書き出します。

- ・ 感謝された行為⇒①数名の女子が山田東小学校の運動会の後片づけを手伝ったこと。山田東小学校校長先生から褒めてあげてほしいと感謝の電話が入りました。



- ②校舎1階に届いたダンボール箱を、状況を考えて自主的に2階の印刷室に上げてくれている人がいる。とてもありがたいし感謝している。

- ・ 非難された行為⇒①山田神社の前にたまって話などをしている、他の人の通行の邪魔になっていること。それを注意した方にとんでもないことを言い返したりしていること。



- ②農機具を収納している田畑の倉庫裏に夜集まって、大声で話をしたり、ゴミをその場に捨ててゴミだらけにして近所迷惑になっていること。（裏面に続く）

感謝された行為と非難された行為、あなたはどちらをする人に属したいですか？人に感謝されたいか非難されたいか？どちらがあなた自身のためになるか考えてみればすぐにわかると思います。

実はどちらも大きな決断や意識を必要とすることではありません。だれでも状況によって簡単にやっつけてしまいそうなことなのです。でも結果は全く異なるものになります。だから、目の前にあるもの、目の前で起こっていることに対して、これを自分がやるべきかやらぬべきかを、他人や周りの雰囲気によって左右されるのではなく自分自身で判断して行えば、おそらく誰もが感謝される行為ができると思います。

新聞やネットのニュースを読んでいると、最近中学生が地域のご高齢の方を助けたり、小さい子を助けたりしている記事をよく見かけます。

みなさんも、地域で生活をしている中で、少し周りの方に目を配っていれば、すぐに感謝される行為に繋がるものが見えてくるはずですよ。見えたときに自分自身でどうするかしっかり判断し、少し行動する勇気を持てば、あなたは感謝の言葉で満たされるでしょう。そしてその感謝の言葉によって今度はあなた自身が豊かな心を持ち、大きく成長することに繋がるでしょう。

みなさんにはそんな大人になってほしいと願っています。



◆◆考えてみよう！！◆◆

2019年のノーベル化学賞に日本から吉野 彰氏が選ばれました。これで日本人の受賞者は28人（内3人は外国籍）となりました。今年受賞した吉野 彰氏は、あなた方もよく使っているリチウムイオン二次電池の負の電極に使用する物質の発見と、その後のリチウムイオン電池の実用化に功績がありました。ちなみに、吉野氏とともにノーベル化学賞を受賞したとアメリカのスタンリー・ウィッティンガム氏がリチウムイオン電池のそのものの原理を発見し、正の電極に使用する物質の発見はもう一人の受賞者であるイギリスのジョン・F・グッドイナフ氏です。コバルト酸リチウムが正極に使えるという発見には、日本人の水島公一氏も共同研究で参加していますし、それ以外でも本当にたくさんの研究者が参加し、成果を出し、その積み重ねによってリチウムイオン二次電池が出来上がったのですが、その核となるポイントの中心にいた3人が受賞したのです。



一つの新しいものを発見し何かを作り上げるには、ノーベル賞などの陰に隠れた本当にたくさんの人の努力と英知が積み重なって、ようやく成すことができるのだと思います。日頃何も考えずに利用しているいろんな物が、本当にたくさんの努力の積み重ねの上にあるのだと理解し、感謝しながら使う必要があると思いました。

それでは、受賞した吉野 彰氏が、大学の教え子たちに語った言葉のなかから朝日新聞が紹介している吉野氏の言葉を二つ紹介します。

その言葉の意味をしっかりと考え、受け取って、今後のあなた自身の成長の糧としてください。

★岩月駿弥さん

「話す経験がすごく豊か。僕が教えてもらったのは、『壁をありがたく思え』ということ。壁にぶつかることもあるけど、壁にぶちあたって新しいことは生まれるということを教えてもらった。」

★三ツ井優人さん

「吉野先生の授業は他の先生より圧倒的にディスカッションの時間が多い。受け身ではなく、とても考えさせられる」

「壁ってというのは来るのが早い方がいい。その分乗り越えていけばどんどん成長できるから」

二人とも「壁」について話しています。「壁」＝立ちふさがる障害物、それにぶつかったとき人は初めて本気でその「壁」をどうやって乗り越えるか自分で考え、失敗を重ねながら何度も自分の力で挑戦し、ようやくのことで乗り越える。それがその人の力となり成長となり、新しいものを生み出す。そこには「人にしてもらいのを待つ」「誰かに指示されてするのではなく自分がする」というあなた自身の覚悟と主体性、そしてめげずに何度でも挑戦できる根気と強い心が必要なのだと私は思います。

「壁」を他人に取り除いてもらっているうちは、自分は成長できないのだと自覚しましょう。